ビックカメラ名駅2店舗で
長野県が地酒フェア

ビックカメラ名古屋JRゲートタワー店（名古屋市中村区名駅）とビックカメラ名古屋駅西店（同椿町）で15日、長野県の地酒を販売するイベント「伊那路・木曽路お酒フェア」が始まった＝写真。

長野県の酒蔵など14社が酒類約100種と食品約20種類を用意。日本酒のほか、長野県産のブドウを使用した信濃ワイン（塩尻市）の「信濃ワイン」や、上品な味わいが特徴の林農園（同）の「五一ワイン」も取りそろえている。

ウィスキーや地ビールも並び、多くの来場者が試飲を楽しんだ。

16日も試飲を行う。フェアは1カ月間開かれ、2会場で計2千万円の売り上げを目指す。また、16日までJR名古屋駅中央コンコースで伊那路や木曽路の観光PRを行う。長野県の担当者は「長野県の酒を堪能してもらい、現地への観光に興味をもってもらいたい」と話していた。

夏メニューを21日から投入
スガキヤ

スガキコシステムズ（本社名古屋市、菅木伸一社長）は、ラーメン店「スガキヤ」の一部店舗を除く331店で夏メニューを21日から投入する。

「ざるラーメン」に、酸味が多い梅つゆを追加する。価格は390円（税込み）。また、「肉入らーめん」と五目ごはんのセットを「平日限定お得セット」に加え

をアピールする。

27日は中部経済産業局局長の富吉賢一氏が「中部経済の現状と展望」をテーマに講演する。28日は科学技術庁研究開発局の石田竜太氏が「電動化時代を迎えたパワ

演。29日はトヨタ自動車のパワートレーン製品企画部パワートレーンシステム計画室室長の石田竜太氏が

着眼大局　着手小局

輝きを求められる人間力

❖24❖

いちばん大切にしたい「志」

今回は、私がいちばん大切にしたいことを書いていきたいと思います。それは「志」です。昨今、経営における理念やビジョンの重要性が求められてきたようにみえますが、吉田松陰が「志を立てて

もって万事の源となす」という名言を遺したように、かねてより私たち日本人は志ということばで、この精神を大切にしてきました。

しかしながら、志について重要性は痛感するものの、どのようなことが該当するのか、どう考えたらいいのか、ということを疑問に思う方も多いのではないでしょうか。これに対し、多くの偉人の伝記を記した小島直紀氏は、志の条件を具体的に三つあげています。

一つ目は、「人生のテーマを持つこと」です。私たちが仕事に取り組むにあたり、テーマは数限りなくあります。しかし、仕事のテーマは仕事を離れると消えてしまいます。一流と言われる人たちは、やはり人生のテーマを持ち、終生そのテーマを探求することに命を掛けています。

二つ目は、「生ていく上で譲れない原理原則を持つこと」です。教育現場でも立腰の実践が見直されてきているように、私たちも、真っ直ぐとした背骨の精神を持ちたいものです。「逆境こそが神の恩寵的試練」と説いた森信三氏の生き方にもあるように、辛い時や悲劇のどん底にあるときにこそ、崩さない生き方の原理原則が試されています。

そして最後は「言行一致」です。まさに、口で言うことと実際に行うことを一致させることです。「私がやります」といったら「必ず最後までやり遂げる」ことは、世の中を見渡すと残念ながら実践がされていないものです。身をもって実践し、完遂する。その厳しさがあってこそ次代を担う道が開けるのではないでしょうか。

新たな道を切り開くキーワード

改めて、仕事という役割や立場を離れて、私自身としての志は何であるかということを考えました。それは、物事の本質の重要性、志の重要性を人に伝え、その考え方、精神を次世代へつないでいくことに尽きます。

少子高齢化や人口減少など、私たちは混迷を極める時代を生きています。しかし、そんな現代にこそ私たちが志を燦然と掲げ、新たな道を切り開いていかなければならないのではないでしょうか。

この連載も今回で最終回となりました。心の琴線に触れる何かがお伝えできましたらこの上ない喜びです。次回からは、経営に活かすことができる「コミュニケーション心理学」をテーマに筆を進めて参りたいと思います。引き続きよろしくお願いします。

【加藤滋樹・プレジデントワンコミュニケーション・アナリスト】

（おわり）